

## 銀行員の貸借対照表のチェックポイントとは？

企業の決算書を何百社と見ていますと、「貸借対照表は社長の性格を表す」というのは真実だと感じます。

あらゆる無駄をそぎ落とした貸借対照表を作り上げる社長というのは、数字に明るく、誠実で、石橋を叩いても渡らないくらいの堅実さを持ち、それでいて自己資本の充実を何よりも優先されてきたために、多少の失敗では崩れることのない強気の経営を実現されています。

一方で、一目見て思わずふたをしたくなるような貸借対照表もあり、経営者に会わずとも貸借対照表から社長の性格が浮かび上がってまいります。

これは、銀行員の方も同じようで、彼らも何百社、何千社という会社の貸借対照表と経営者を照らし合わせてきた経験がありますので、優秀な営業担当者になると 10 秒くらい貸借対照表を見れば、「貸せる、貸せない」の判断結果が頭の中で出てしまうそうです。

そこで、銀行員は貸借対照表(特に、資産項目)の何を見て何を判断するのかをまとめてみましたので、ご参考にしていただければ幸いです。

### 【現預金】

期末の現預金残高はいくらか？期末時点でぎりぎりであれば資金繰りにかなり窮しているのではないかと判断します。

よほどの優良企業でない限り、決算後、2 カ月間はこの金融機関も融資を申し込んでも、「決算書が出てから考えさせてください」との回答をされることが多く、決算時点の現預金をぎりぎりにするというのはかなり危険な行為なのです。

また、現預金の勘定科目内訳書を見て、定期預金を除いた流動性預金(当座預金・普通預金)の残高のみで資金繰りの余裕度を判定します。

営業担当者の多くは、月商の 2 か月分程度の預金残高を合格ラインとしているようですので、銀行員と目線を合わせるためにも、一つの参考値としてみてください。

### 【売掛金】

銀行員の売掛金を見る目は、「不良債権がないか」と疑う目です。毎年同じ相手先で同額の売掛金が載っていれば、まず不良債権と判定します。それをご存知の経

営者が、「不良債権は、売掛金の内訳書のその他の中に紛れ込ませておけ」と経理に指示しているのも百も承知です。そんなに甘くはないのが現実です。

得意先が数社に偏っている中小企業が多いかと思いますが、得意先の帝国データバンクの評点を確認することでその企業の営業基盤のリスクを把握したりしていますので、目線を合わせるためにも重要得意先の帝国データバンクの評点は是非把握しておかれることをお勧めします。

### 【棚卸資産】

粉飾をする場合は、棚卸資産を膨らませるケースが圧倒的に多いため、まず目が行く項目です。

銀行員は、数年間の棚卸資産回転期間の推移を見て、また、それを業界平均値と比較して、異常がないか検証します。

特に売上高にあまり変化がないのに、棚卸資産が増えていると一発で疑われますので注意が必要です。

### 【貸付金】

社長への貸付金は特に問題視します。公私混同の激しい信用できない社長、と経営者の資質が疑われることもあります。上場企業に勤めている銀行員にとってはあり得ない行為です。事業のために使うからとの言葉を信じて自分たちが融資したお金を、個人的な支出の目的のために社長に転貸されたとの見方も出ます。

定期的な返済がされていない場合には不良資産と見なされ、結果、自己資本からマイナスされて実質債務超過の判定を下され、その後の融資が途絶えた企業も多々ありますので、注意が必要です。

### 【土地建物】

事業用資産は簿価評価とし、非事業用資産(社員寮や遊休土地など)は時価評価している金融機関が多いようです。

多額の含み損を抱えた不動産がありますと、その含み損を差し引いた実質自己資本で、自己資本金額、自己資本比率を判断しますので、目線を合わせるためにも所有不動産の固定資産税評価額と簿価の差くらいは一覧にまとめておかれることをお勧めいたします。